

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 9 日作成)

小委員会名	都市防災・復興小委員会	主 査 名：大西一嘉 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：西村幸夫 主 査 名：
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・・地域性を考慮した防災対策の見直しとともに、被災地の復興支援のあり方について、事前・事後の両面から解決すべき都市計画課題を明らかにする。必要な成果を社会的に還元するために、蓄積された知見の資料集としての公表や各種シンポジウムの開催を企画する。</p> <p>初年度：近年の都市災害被災研究に基づく防災資料の公開企画などを行う。 2 年度：災害調査のあり方を研究会方式で議論する。 3 年度：復興支援のあり方を研究会方式で議論する。 4 年度：市民防災と防災行政の双方の立場から議論する</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：あり</p> <p>主査：大西一嘉(神戸大学) 幹事：糸井川栄一(筑波大学)、幹事：村尾 修(筑波大学)、幹事：加藤孝明(東京大学)、池田浩敬(富士常葉大学) 委員：岡田成幸(名古屋工業大学)、市古太郎(首都大学東京)、牧紀夫(京都大学防災研究所)、伊村則子(武蔵野大学)、紅谷昇平(三菱 UFJ 総研)、石井儀光(国土交通省国総研)、澤田雅浩(長岡造形大学)、日高圭一郎(九州産業大学)、鈴木広隆(大阪市立大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>防災教育 WG 社会防災教育の面で、小委員会活動の成果の還元とともに大学教育に積極的に生かしていくために、旧・都市防災小委員会の成果を引き継いで、続編の編集をめざすと共に図集作成過程で蓄積したデジタルデータを生かした電子出版の実現に取り組む。</p>	
2006 年度予算	300,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 公開研究会：新潟県中越地震の被害と対応から学ぶ(住まいの被害と復興) 参加者数 30 名</p> <p>2. 公開研究会：集団移転を伴う海外の災害復興事例 参加者数 20 名</p>
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 国内と海外の地震防災・災害復興に関する2回の公開研究会を通じて、復興に関わる調査とその成果について、小委員会の枠を超えて関連研究者と共有すると共に、社会への還元を目指すことができた。 2. 次年度の大会PDを開催に向けて論点の整理と、研究資料の集約を進めることができた</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 都市防災図集に関して、著作権の許諾作業に予想以上に手間取ったため、年度内の刊行が困難となっている。 2. 建築雑誌掲載以外に、チラシの配布や、HPへも掲載するなど積極的にPRに努めたが公開研究会参加者が限られている。 3. 公募枠を活用して若手や女性研究者の参画を促す</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。